

バチェラーセブン

ジャズ研「中南米音楽研究会」を前身とする「バチェラーセブン」は、現在20人ほどが在籍する軽音楽サークル。音楽への情熱は誰にも負けない——そんな部員たちが切磋琢磨し、演奏の技術を磨いています。

部長

理工学部
電気電子通信工学科 2年
中野蒼彩さん

建築都市デザイン学部
建築学科 1年
三浦将司さん

前部長

工学部
機械システム工学科 4年
手塚捺恵さん

都市生活学部
都市生活学科 1年
松野涼音さん

メンバー皆が生粋の音楽好き。毎日のようにセッションに興じる

「バチェラーセブン」は、本学の前身である武蔵工業大学の時代に設立された、40年以上の歴史をもつサークルです。現在は軽音楽サークルとしてさまざまな音楽に親しんでいます。が、そもそもが「ジャズ研」としてスタートした背景から、特有の色があるといえます。セッションを楽しむ部員が多いのも一例。部長の中野さんは、「世田谷キャンパス18号館の部室にいれば、毎日誰かしらがいる。セッションは即興なので、集まった人で音楽ができます。毎回違った音楽が生まれるのが楽しい」と、その魅力を語ります。また「18号館でいつも顔を合わせるから、部員の距離が近いのも特徴です」と同氏。皆の都合が付きやすい日曜夜にはZOOMで部会を開き、そこでも音楽談義に花を咲かせています。

即興演奏を楽しめるだけあって、部員の演奏の腕も相当のもの。1年生・ピアノの松野さんは、入部の決め手となったのが

先輩の演奏と言います。「コロナ禍だったので生演奏は聴けなかったのですが、前部長の手塚さんたちのライブ動画が配信されているのを見て、こんなに精巧に音を作っている人たちがいるんだ、カッコいい!と憧れました」。動画がきっかけで入部してくれたことに手塚さんは、「めっちゃめちゃ嬉しい」と喜びを隠さず。その手塚さんも、入部のきっかけは先輩たちの演奏の上手さに感動したからだと言います。「私が1年生のときは、まだ軽音楽サークル6団体合同の新入生歓迎ライブがあって。演奏を間近に観て、このサークルでなら私もきっとギターが上手くなれる、上手になりたい!と思い入部を決めました」。余談ですが、他の軽音楽サークルの部員からもバチェラーセブンは「とにかく楽器が上手い」、「皆がストイックに音楽を突き詰めている印象」という声があり、部員の音楽に向き合う姿勢が目置かれている様子でした。



「行けば誰かしらメンバーがいる」という、18号館で行っている練習風景。



どちらが新部長になるかの勝負は、演奏の腕——ではなく腕相撲で。見事に勝利した中野さんが部長に着きました。